

<b>Course number</b>		U-LAS62 10005 PJ17			
<b>Course title (and course title in English)</b>	森里海連環学実習Ⅲ：暖地性積雪地域における冬の自然環境と人の暮らし		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Field Science Education and Research Center Associate Professor, Ishihara Masae	
	Field Study on Connectivity of Hills, Humans and Oceans III :Natural Environment and Human Society in Winter Season of Warmtemperate Snowfall Region			Field Science Education and Research Center Senior Lecturer, SAKANOUÉ NAO Field Science Education and Research Center Senior Lecturer, MATSUOKA SHUNSUKE Field Science Education and Research Center Assistant Professor, SUZUKI HANAMI	
<b>Group</b>	Interdisciplinary Sciences		<b>Field(Classification)</b>	Studies on Connectivity of Hills, Humans and Oceans	
<b>Language of instruction</b>	Japanese		<b>Old group</b>	Group B	<b>Number of credits</b> 1
<b>Hours</b>	30	<b>Class style</b>	Practical training (Face-to-face course)		<b>Year/semesters</b> 2026・Intensive, Second semester
<b>Days and periods</b>	Intensive TBD		<b>Target year</b>	All students	<b>Eligible students</b> For all majors
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>芦生研究林の位置する京都府北東部は暖地性の積雪地域であり、積雪深は50cmを超える。積雪を含め冬期の気候は、近畿地方有数の原生的な森林である芦生研究林の生物相や生態系を規定する重要な要因である。また、茅葺きの家など、芦生研究林の位置する南丹市美山町に暮らす人々の暮らしや文化にも大きな影響を与えてきた。</p> <p>こうした気候、自然、人間の関係性を学べるフィールドは限られてきている。しかし、気候変動にともなう積雪パターンや気温の変化は、これまで適応・対応・進化・発展してきた生物や人間社会に変化をもたらしつつある。さらにシカの食害や人口減少に伴う農山村の衰退にも関係している。</p> <p>本授業では、冬の芦生研究林や美山町でのフィールドワーク・聞き取りを通じ、この地域の冬の自然環境を体感し、植物や動物の活動や人間の暮らしや産業がどのように制限されるか、またその制限に対する生物の対応や、積雪の観光利用など人間社会の適応について理解を深める。さらに地球温暖化・人口減少・シカの食害などの課題を学び、それらの解決にむけて新たな森と人とのつながりについて議論する。</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<p>冬の森林において、気候、植物・動物などの活動を定性的・定量的に評価する方法を学ぶ。生物の活動がどのように制限されるか、またその制限に対する生物の対応について理解を深める。人々の暮らし・文化がどのように制約され、また対応してきたのかを理解する。</p> <p>こうした冬の自然環境・生物・人間社会の関係性が変化してきていること、そこでの課題について理解する。さらに課題解決にむけて、森里海連環学に基づき、自然と人間社会の新たなつながりを考える力を身につける。</p>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<p>2027年2月16-18日(火 木)に、芦生研究林において合宿方式で行う。 それに先立ち、1月から2月上旬に事前説明会、事前講義を京大農学部にて行う。</p> <p>予定(天候・雪の状況等によって変更の可能性あり) 第1日：芦生研究林への移動とオリエンテーション</p>					
Continue to 森里海連環学実習Ⅲ：暖地性積雪地域における冬の自然環境と人の暮らし(2)					

森里海連環学実習Ⅲ：暖地性積雪地域における冬の自然環境と人の暮らし(2)

14:00：オリエンテーション。京都丹波高原国定公園ビジターセンターにて地域の課題を学ぶ。地域の農山村において聞き取りを行う。宿舎周辺の雪観察。夜、講義・議論。

第2日：

午前：芦生研究林における冬の自然環境と森林観察

午後：栃の実を用いた地域活性化を栃へしを地域団体と一緒に実施して学ぶ。

夜：議論

第3日：

森林観察。

ビジターセンターにて、議論。

#### [Course requirements]

募集定員は13名。病気等のやむを得ない事情を除き、事前説明会、事前講義、2月16-18日(火 木)は全日参加必須です。部分的にしか参加できない場合は履修を認めない。

#### [Evaluation methods and policy]

1. 実習中の発言 30点
2. 調査方法の習得状況 30点
3. レポート 40点

#### [Textbooks]

教科書は使用しないが、芦生研究林や調査法に関連する資料を配付する。

#### [References, etc.]

(References, etc.)

石原正恵・赤石大輔・徳地直子 『「大学の森」が見た森と里の再生学 京都芦生・美山での挑戦』(京都大学学術出版会, 2024)

(Related URL)

<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/ashiu/2023/03/15/3296/>(過去の実習の報告)

#### [Study outside of class (preparation and review)]

事前にビデオ、資料などを示す。集中講義の最後に全体を通してのレポートを課す。

#### [Other information (office hours, etc.)]

詳細は12月初旬に発表の募集要項を参照。日程調整等の連絡は基本的にメールで行います。1月下旬に説明会を開催するので、必ず参加すること。そのうえで履修登録を行う。定員を超える応募があった場合は申し込み順とする。4回生の履修については、卒業に必要な単位としては成績判定が各学部の締め切りに間に合わない可能性があるので要注意。

特別な予備知識は必要としないが、冬期の積雪地域での実習になるので防寒具の準備は必須である(詳細は説明会にて)。また、野外での講義・実習がメインになるので各自学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に必ず加入のこと。食費(実費(自炊)4000円程度)・宿泊費(550円)・交通費(バス代往復 2160円)は各自負担。

#### [Essential courses]